

教育学部・教育学研究科

I	研究水準		研究 2-2
II	質の向上度		研究 2-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、研究成果の量だけでなく、国際的に通用する質の高い研究の産出、外部資金の獲得、大学院教育へのリンク、国際的な研究交流が共鳴し合って研究成果が生まれている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択件数が、年平均 44.3 件（約 7,200 万円）となっている。その他の競争的外部資金の受入れ状況は、平成 16 年度以降に 21 世紀COEプログラム及びグローバルCOEプログラムが各 1 件採択され、活発な研究活動が展開されていることは、優れた成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、教育学系・心理学系に基盤をおきながらも広い学識に基づく研究と基礎的研究の両方から多数の先端的な研究成果が生まれている。卓越した研究成果として、例えば、忘却のメカニズムの検討、H.D.ソローやJ.デューイに関する哲学的な検討がある。記憶研究は当該分野で世界有数の学術誌に掲載され、そのダウンロード回数が 23 位に達した論文であり、アメリカ哲学の研究は、論文・単行本の発表により米国で評価され、世界主要国で招待講演が続いた成果である。これに次ぐ研究としては、メディア論や学習に関する実験心理的研究があり、さらに優れた研究は数多く生まれている。社会、経済、文化面では、終戦記念日を主題とするメディア論が特筆されることは、優れた成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。